

基礎講座

UNICEF

1980年代中頃、下痢を原因とする脱水症状が年間500万人の5歳未満の子どもの命を奪っていました。現在ではその数は年間220万にまで減っています。これはORS(Oral Rehydration Salt=経口補水塩)を使った簡単な療法のおかげです。子どもにとって今世紀の大きな功績のひとつと言われるこのORSはどのようにして生まれたのか、その歴史をたどってみましょう。



ユニセフが使っているORS(経口補水塩)のパッケージ

第9回

経口補水塩

ORS 誕生物語

ORSはなぜすぐれているの?

保健の知識が普及していない地域では、子どもが下痢をすると、水や食べ物を与えるのを控えがちになり、これが脱水症状を悪化させます。この状況に大きな変化をもたらしたのがORSです。塩と砂糖を主な原料としてつくられているORSを水に溶かし、子どもに飲ませるだけ。普通の水の25倍の吸収力で体に水分を補うこの簡単な療法は、ORT(Oral Rehydration Therapy=経口補水療法)とよばれています。

下痢による脱水症状には、「静脈への点滴」と「ORT」の治療法がありますが、ユニセフはORTの方がはるかに開発途上国の子どもたちの脱水症状の改善に役立つと考えています。これにはいくつかの理由があります。まず、点滴や注射は専門の医療知識を持った人でないと子どもに施すことができません。これに比べ、ORTは医療知識を持たない人たちが簡単に使うことができます。というも安全な水にORSを溶かして子どもの口から与えるだけでよいからです。しかも、ユニセフが子どもに与えるORSは一袋わずか10円です。



© UNICEF / HQ99-0294/GiacomoPirozzi

しかし、フィリップスは66年に東パキスタン(現バングラデシュ)のコレラ研究所所長(現在の国際下痢研究所)に就任、ORSの開発に再び精力を注ぎはじめました。そして現地のコレラ流行の際に初のORT大規模テストに成功し、中程度の脱水症状なら点滴でなくてもORTだけで症状が回復することを確かめました。

ORSがさらにに大きな効果を発揮したのは1971年、東パキスタンの内戦のときでした。隣接したインドの難民キャンプで3人にひとりが死亡するほどのコレラが猛威をふるったのです。患者の5人に2人は小さな子どもでした。あまりの大流行のため、点滴液が不足し、カルカッタのジョーンズホプキンス大学研究所からORSを持った医療班が到着しました。この医療班は3700人の患者にORTを実施し、96%以上の患者の命を救うことができたのです。一方、病院に入院したコレラ患者の死亡率は25%にも上りました。ここでORSの効用は、はっきりと証明されたのです。

ORSの誕生

ORSの誕生は、19世紀以来のコレラ研究と深い関係があります。ORSの効用が発見されるまでの歴史を振り返ってみましょう。

1832年、アイルランドの医師ラッタが瀕死のコレラ患者15人に食塩水を注射し、5人の命を救いました。しかし、医学会は数十年にもわたり疑問を持ち、この治療法は普及しませんでした。それから約80年後、英国の病理学者ロジャースがインドのカルカッタでコレラ患者にこの療法をふたたび実施。患者の死亡率を下げることに成功しました。

1940年代末にはオックスフォード大学の研究員が、砂糖は小腸に吸収されるさいに、塩と水も一緒に小腸内に運んでいくことを発見しました。また、同じころアメリカのフィリップスが今日使用されているものに近い点滴溶液をつくりだしました。その後、彼は口から水分補給できるORSの開発にも目をむけましたが、塩の割合を誤って実験中に死者を出し、落胆したフィリップスはORS研究を中止してしまいました。

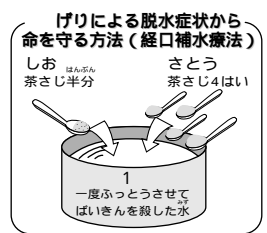
子どもを救いはじめたORSパワー

その後ORSは急速に広まっていきました。1980年代にユニセフは「子ども健康革命」を提唱して、その中で積極的にORTの普及に努めました。

1980年代はじめにはORTの普及率はわずか1%でしたが、現在では、最貧国の子どもの脱水症状の約半数がORT

によって治療されています。また、ORSパッケージを使うのみでなく、水に砂糖と塩を溶かして飲ませる方法を家庭に広めることでさらに効果を上げています。

(イラスト参照)



© UNICEF

今では開発途上国の家庭の約7割にこの療法が広がっています。写真は、保健センターでORTのやり方を学ぶお母さんたち。

しかし、いまでも1日に約6000人の子どもが下痢による脱水症状で命を失っています。ORSや砂糖が手に入らない地域では代わりに穀物や果物などを糖分として利用することもできます。手軽なORTをさらに普及させ、下痢による子どもの死亡を減らすことはユニセフの大きな使命のひとつなのです。